

製品名: β -1,4-Gal-T2 ウサギポリクローナル抗体

カタログ番号: APRab20344

研究使用のみ

概要

| | |
|--------|--|
| 説明 | ウサギポリクローナル抗体 |
| 宿主 | うさぎ |
| 応用 | IHC, ICC/IF, ELISA |
| 反応性 | ヒト、マウス |
| 標識 | 非共役 |
| 修飾 | 未修正 |
| アイソタイプ | IgG |
| クローン性 | ポリクローナル |
| 形態 | 液体 |
| 濃度 | 1mg/ml |
| 保存 | アリコートし、 -20°C で保存してください (12 ヶ月有効)。凍結/融解サイクルを避けてください。 |
| 輸送 | 氷袋 |
| バッファー | 50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。 |
| 精製 | アフィニティー精製 |

応用

| | |
|------|---|
| 希釈倍率 | IHC 1:100-1:300, ICC/IF 1:50-1:200, ELISA 1:10000-1:20000 |
| 分子量 | |

抗原情報

| | |
|--------------|--|
| 遺伝子名 | B4GALT2 |
| 別名 | B4GALT2; Beta-1; 4-galactosyltransferase 2; Beta-1,4-GalTase 2; Beta4Gal-T2; b4Gal-T2; UDP-Gal:beta-GlcNAc beta-1,4-galactosyltransferase 2; UDP-galactose:beta-N-acetylglucosamine beta-1,4-galactosyltransferase 2 |
| 遺伝子 ID | 8704.0 |
| SwissProt ID | O60909 |
| 免疫原 | ヒト β -1,4-Gal-T2 の C 末端領域から得られた合成ペプチド。 |

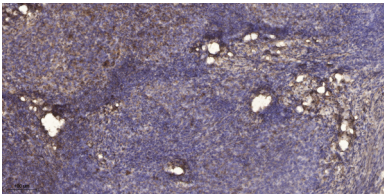
背景

この遺伝子は、7つの β -1,4-ガラクトシルトランスフェラーゼ (beta4GalT) 遺伝子の1つです。これらの遺伝子は、供与基質であるUDP-ガラクトースに特異的に特異性を持つII型膜結合型糖タンパク質をコードしています。これらの遺伝子はすべて、 β 1,4結合したガラクトースを、同様の受容体糖 (GlcNAc、Glc、Xyl) に転移します。それぞれのbeta4GalTは、異なる複合糖質および糖構造の生合成において、それぞれ異なる機能を有しています。II型膜タンパク質であるbeta4GalTは、タンパク質をゴルジ体へ誘導するN末端疎水性シグナル配列を有し、このシグナル配列は切断されずに膜貫通アンカーとして機能します。配列相同性により、beta4GalTはbeta4GalT1とbeta4GalT2、beta4GalT3とbeta4GalT4、beta4GalT5とbeta4GalT6、そしてbeta4GalT7の4つのグループを形成します。この遺伝子によってコードされる酵素は、糖脂質および糖タンパク質中のN-アセチルラクトサミンを合成します。基質特異性: 触媒活性: UDP-ガラクトース + D-グルコース = UDP + ラクトース。触媒活性: UDP-ガラクトース + N-アセチル- β -D-グルコサミニルグリコペプチド = UDP + β -D-ガラクトシル-(1 \rightarrow 4)-N-アセチル- β -D-グルコサミニルグリコペプチド。触媒活性: UDP-ガラクトース + N-アセチル-D-グルコサミン = UDP + N-アセチルラクトサミン。補因子: マンガン。機能: 多くの糖タンパク質および糖脂質の炭水化物部分の複合型N結合型オリゴ糖の合成を担う。ラクトースを生成できる。オンライン情報: Beta-1,4-ガラクトシルトランスフェラーゼ2、オンライン情報: GlycoGene データベース、経路: タンパク質修飾;タンパク質グリコシル化。類似性: グリコシルトランスフェラーゼ7ファミリーに属する。細胞内局在: ゴルジ体トランスシステルナ。組織特異性: 様々な組織で弱く発現する。前立腺、精巣、卵巣、腸管、筋肉、胎児脳で最も高い発現を示す。、

研究分野

ガラクトース代謝、N-グリカン生合成、ケラタン硫酸生合成、スフィンゴ糖脂質生合成

画像データ



パラフィン包埋ヒト子宮頸癌の免疫組織化学分析。1、抗体を1:200に希釈した(4°Cで一晩)。2、抗原賦活化にはTris-EDTA、pH9.0を使用した。3、二次抗体を1:200に希釈した(室温、45分)。